

資 料 の 刊 行

(昭和49年4月～6月)

<資料題名(発行年月日)>

<担当・協力者>

- 人口問題研究所昭和48年度事業報告書(昭和49年5月).....
 ○Supplement to "Population Problems in Japan", Prepared for the
 United Nations World Population Conference, August 19-30, 1974
 (June, 1974).....

人口政策部政策科
 資料課
 庶務

黒田 俊夫 技官

第 26 回 日 本 人 口 学 会 大 会

標記の大会は、昭和49年5月16(木)、17(金)の両日にわたり、千代田生命保険相互会社(東京都目黒区)の会議室において開催された。今回の大会は、明治大学吉田忠雄教授を委員長とする大会準備委員会の多大の努力によって、盛大な大会日程を終了した。会員参加者は104名に上り、本研究所からも多数の関係者が出席した。

大会プログラムは下掲のごとくであるが、本年は学会役員の改選期に当たり、大会会期中に行なわれた選挙によって新役員(理事・監事)が選出され、新理事の互選により寺尾琢磨氏が新会長に選出された。また、かねて辞意を表明されていた前会長南亮三郎氏は、長年同学会に尽くされた功績をたたえられ、総会において名誉会員に推薦された。

総会において選出された新役員(任期2年)を示すと次のとおりである。

会 長	寺 尾 琢 磨	(慶応義塾大学名誉教授)
常務理事	安 倍 弘 毅	(久留米大学名誉教授)
"	森 田 優 三	(福岡大学教授)
"	黒 田 俊 夫	(人口問題研究所人口政策部長)
"	曾 田 長 宗	(国立公衆衛生院顧問)
"	篠 崎 信 男	(人口問題研究所人口資質部長)
"	上 田 正 夫	(人口問題研究所長)
理 事	吉 田 忠 雄	(明治大学教授)
"	安 川 正 彬	(慶応義塾大学教授)
"	小 林 和 正	(人口問題研究所人口政策部政策科長)
"	畑 井 義 隆	(明治学院大学教授)
"	村 松 稔	(国立公衆衛生院衛生人口学部長)
監 事	三 原 信 一	(毎日新聞社人口問題調査会常任理事)
"	山 口 喜 一	(人口問題研究所資料課長)

研究発表会において行なわれた報告の題名および報告者を掲げると次のごとくである。

第1日(5月16日)

○一般研究発表

1. 「死因」からみた世代生命表と静態的年齢別死亡数の比較的

研究——1919(大正8)～1923(大正12)年生れのCOHORT

を中心にして——(その7).....飯 洲 康 雄(東京医科歯科大学)

2. 昭和44~46年都道府県別生命表……………重松峻夫(鳥取大学)
南条善治(福島医科大学)
3. 吉田顕三遺稿『聖運録』(1924)について——リンドハイム
(1909)著・吉田顕三(1913)訳「保寿利国論」の寿命統計
との関連において……………丸山博(元・大阪大学)
4. 出生率の地域差……………植松稔(北里大学)
5. 第6次出産力調査に基づく出生抑制の動向……………青木尚雄(人口問題研究所)
6. 子供に対する価値意識の国際比較的研究……………三原信一(毎日新聞社)
人口問題調査会
入谷敏男(東海大学)
7. シミュレーションによる都市人口の解析……………鈴木啓祐(流通経済大学)
8. 人口移動の費用—便益モデル……………三国一義(金沢大学)
9. 投入財輸入国の経済成長の条件……………高木尚文(成城大学)
10. 世帯構造からみた妻の就業状態……………中野英子(人口問題研究所)
11. 食糧問題と人口問題……………畑井義隆(明治学院大学)
12. 日本の大都市への人口集中と人口逆流……………岸本実(立正大学)
13. 都市化の進展と地域別出生力……………鈴木継美(東北大学)
松山恒明(宮城教育大学)
14. 社会開発の要因……………山本幹夫(帝京大学)
15. 日本の人口爆発と人口静止と人口減少……………斉藤得七(人口問題協議会)
16. 人口静止政策の社会経済的諸要因……………加藤寿延(亜細亜大学)

第2日(5月17日)

○共通テーマ「人口静止への行動計画」

I 研究発表

1. 人口静止と老人, 若者の福祉——日本人はなぜ子どもを

生むかをふまえての行動計画——……………岡田真(駒沢大学)

2. 人口静止への過程……………安倍弘毅(久留米大学)

矢野邦夫()

江崎広次(福岡大学)

田中雅生(九州大学)

3. 人口静止の社会学的認識……………磯村英一(東洋大学)

II シンポジウム……………座長…曾田長宗(国立公衆衛生院)

篠崎信男(人口問題研究所)

1. その国際的必要性……………村松稔(国立公衆衛生院)

2. 日本人口静止の可能性……………岡崎陽一(人口問題研究所)

3. 人口静止実現への道……………安川正彬(慶応義塾大学)

4. 出生抑制技術の発達……………荻野博(国立公衆衛生院)

5. 人口教育……………国井長次郎(日本家族計画協会)

討論者…寺尾琢磨(慶応義塾大学)

黒田俊夫(人口問題研究所)

松本清一(自治医科大学)

加藤ンヅエ(参議院議員)

なお, 永年日本人口学会のために尽瘁され, 先頃逝去された永井亨ならびに古屋芳雄両元会長の追悼講演(篠崎信男・曾田長宗両理事による)を行ない, 参会者全員そのご冥福を祈った。(山口喜一記)